

親潮

第 327 号

令和 8 年度 第 1 号

OYASHIO

北水同窓会誌

2026

327

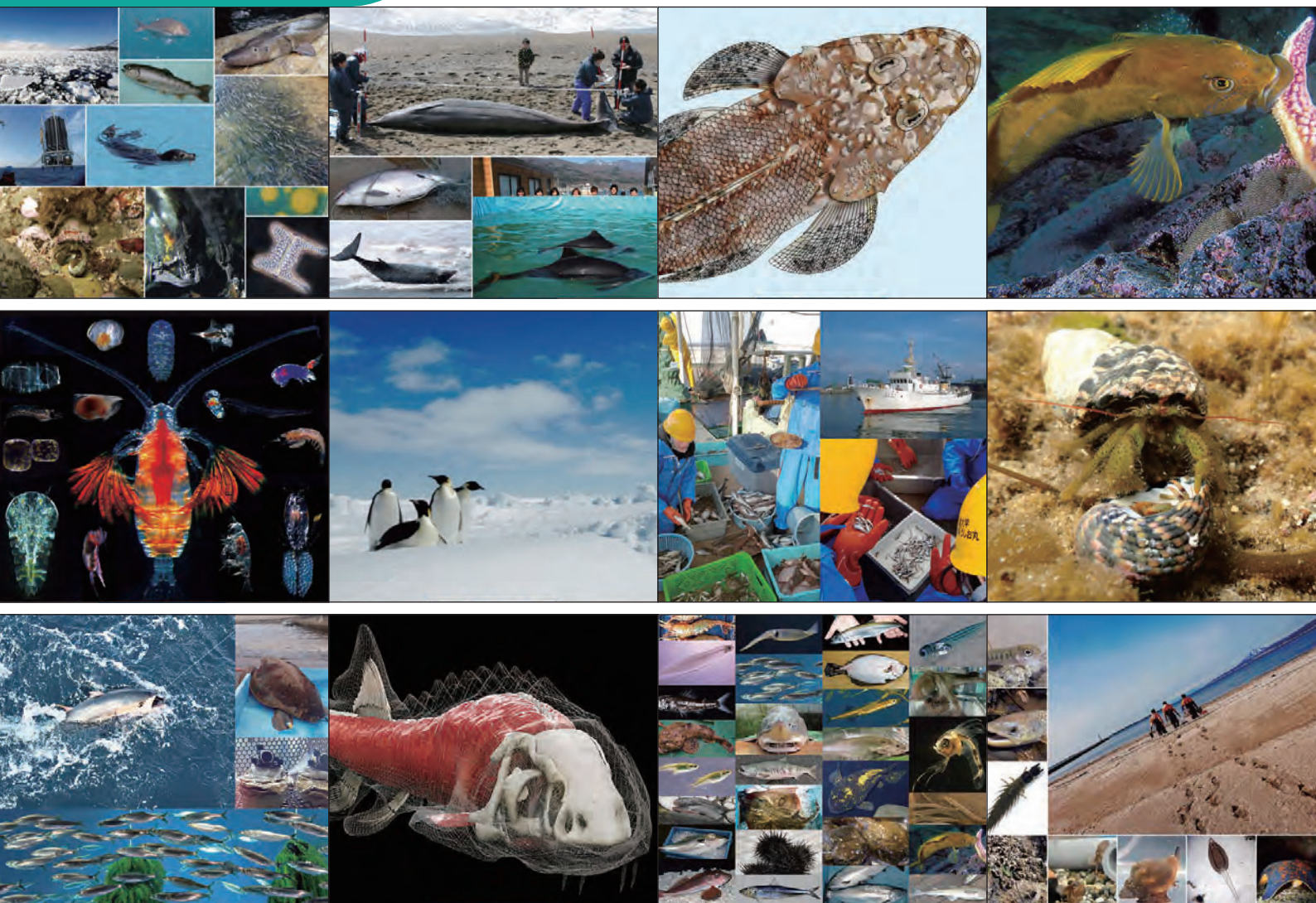
No.1

北水同窓会のEメールアドレスです

hokusuialumni@gmail.com

ホームページアドレスです

<https://hokusui.net>



特集 北水の今

特集 北水ブックス大特集

☐ 北海道大学創基150周年記念イベント案内 ☐ 定期総会報告 ☐ 支部会・クラス会報告 ☐ 寄稿 ☐ 追悼 ほか

親潮

第 327 号

令和 8 年度 第 1 号

OYASHIO

CONTENTS

北海道大学創基150周年記念イベント案内	3
寄稿	4
北水祭実行委員会 委員長 仙北 義典	

特集 北水の今

特 集

北水ブックス大特集	5
北水同窓会総会・懇親会報告	12
高津 哲也(昭63卒)	
第104回 北水同窓会定期総会報告	14
支部会・クラス会報告	18
東京支部 同窓会兼新年会の報告 樋口先輩の旭日重光章受章のお祝いの会を開催しました 北水同窓会広島県支部会2025報告	
寄稿	21
追悼	23
内田 民男氏(昭45卒 昭46特専)	
会員死亡通知	24
学位取得者	25
会員異動	26
親潮投稿規定・編集後記	26

お知らせ

第105回(2027年)北水同窓会 定期総会 開催案内(予告)

来年の北水同窓会定期総会は函館で開催の予定です。

◎日時:2027年5月(詳細未定)

◎場所:函館駅周辺(詳細未定) ◎参加費:未定

会員の皆様には是非ご出席下さいますようお願い申し上げます。

詳細は来年3月の次号でお知らせ致します。

北海道大学創基 150周年

光は、北から

1876-2026

北海道大学は2026年に
創基150周年を迎えます。
詳細は各QRコード先の
ウェブページをご参照ください。

150th

HOKKAIDO UNIVERSITY



創基150周年記念特設サイト

札幌

2026年9月26日(土)・27日(日)の2日間、

札幌文化芸術劇場hitaruおよび札幌文化芸術交流センターSCARTSにて、創基150周年記念したイベントを開催します。

北大の歴史、現在、未来をぜひ会場でご体感ください。



記念写真展「キャンパスと学生の記憶」

◆日時／9月26日(土) 10:00～18:30
9月27日(日) 10:00～17:00

◆会場／札幌文化芸術交流センター
SCARTS〈2FモールC〉

自由観覧

このほかにも、貴重な「お宝」展示、研究紹介、博士学生との研究対話、学生団体の企画、マルシェ、スタンプラリーなどが申込不要で楽しめます。

函館

北海道大学創基150周年記念事業として、2026年10月10日(土)に

「オペレーションUMIシンポジウム」を開催します。

本シンポジウムでは、道南から世界各地まで幅広く活躍する研究者を招き、地球温暖化による海洋の変化について最新の研究成果を紹介します(日本語字幕あり)。また、パネルディスカッションでは、将来の水産資源管理や海洋環境保全、さらには次世代を担う若者の海洋科学への関心につながることを目指します。



◆日時／10月10日(土)
13:00～18:00

◆会場／プレミアムホテル
-CABIN PRESIDENT-
函館〈3Fカメラア〉

研究発表のみハイブリッド

オンライン参加の場合は事前登録が必要です



シンポジウム公式HP



フライヤー

《オペレーションUMIとは?》

北海道大学・ハワイ大学マノア校・沖縄科学技術大学院大学の3校が、海洋学分野における教育・研究を共同で推進するプロジェクトです。

水産をより親密に、より身近に

北水祭実行委員会 委員長 仙北 義典



北水祭実行委員会

OB・OGの皆さま、こんにちは。北水祭実行委員会です！

現在、我々委員一同は10月11日(日)・12日(月・祝)に開催予定の第64回北水祭に向けて、協賛活動、模擬店・展示企画の募集、有志ステージの募集、パンフレット作成、実行委員主催企画の構想など、学業および私生活とともに並立して、北水祭を成功させるべく日々尽力しております。

コロナ禍によって消失してしまった北水祭が復活して早4年。復活して間もないにもかかわらず、屋外ステージの設置や水族館企画の再開など、北水祭は類まれなる進化を遂げています。これもひとえにOB・OGの方々が築き上げてきたものを代々引き継いでいった結果であり、卒業後もご協力およびご支援していただいていることによって成り立っていると思っております。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

昨年の2025年に開催された第63回北水祭では、2日間合計2,159名の来場者数となりました。初日は曇天の中スタートでしたが、次第に晴れていき、多くの方々にご来場いただき会場は大いに賑わいました。毎年恒例の「マグロ丼」は、開店前から長蛇の列が作られ、2日間で400食を即完売いたしました。一昨年から再開しました「水族館企画」では、前年よりも魚種を増やし、チョウザメのタッチプールを開催したほか、AR(拡張現実)を取り入れた新企画を行い、来場者で

満員になるほどの盛り上がりとなりました。祭りの最後には北斗市のマスコットキャラクター「ずーしーほっきー」が出演し、北水祭の公式マスコットキャラクター「うお太郎」との共演を果たし、来場者とビンゴ大会を行うといった大盛況で幕を閉じました。年々進化し続けている北水祭、今後も衰えることなく精進していきたいと思っております。

今年度の北水祭のテーマは「水魚の『好』～水産をあなたの隣に～」です。魚と水のように、切っても切り離せない非常に親密で信頼し合う関係や友情を意味する「水魚之交」という故事成語になぞらえてあります。北水祭の来場者の方々や水産をより親密に、水産や魚という存在をより身近に感じてもらうという意味合いが込められています。食卓に魚介類や水産加工品が並んだり、休日に海に遊びに行ったりなど、すでに日常生活でかかわりの深い水産ですが、まだまだ伝えきれていないこと、知られていないことがたくさんあります。そのような未知の情報を知ってもらおうべく、北水祭ではお祭りというイベントを通して、楽しみつつ知ってもらいたいと思っております。また、直近での北水祭実行委員会の活動として、例年開催している「七夕企画」を行いました。近隣の小学生や幼稚園生など、地域の子供たちがキャンパスまで短冊を書きに来てくれて、貴重な交流の機会となりました。さらに、水産学部ならではの七夕として、来てくれた子供達にはお菓子と一緒にLASBOSカードの配布も行いました。カードをもらった子供たちはとても嬉しそうにしており、実行委員一同も楽しい時間となりました。このように、今年のテーマに沿って「地域の方々と交流を深めつつ水産を身近なものにしていく」といった活動を行っていききたいと思います。

2026年度、第64回北水祭は10月11日(日)・12日(月・祝)開催予定です！毎年恒例のマグロ丼の販売や水族館企画はもちろん、研究室ツアー、縁日、屋外ステージ、模擬店等々、子供からお年寄りまで楽しめる内容となっております。また、一部企画では新要素を取り入れたり、新企画の開催なども検討中なので、楽しみにしていただけたいと思います！10月11日・12日はぜひ北水祭へお越しください！

最後になりますが、本会誌にて寄稿させていただき感謝申し上げます。現在、北水祭の活動費用として寄付金を募っております。下記よりご協力いただけたら幸いです。今後とも応援のほど、よろしくお願い申し上げます！



第63回北水祭の当日の様子



水族館企画の様子



毎年恒例のマグロ丼

寄付ご協力をお願い

現在、北水祭実行委員会では第64回北水祭の開催に向けて準備を進めております。しかしながら、近年の物価高、さらに、今年度は実行委員数の不足もあり、資金について実行委員会だけで賄うのは厳しい状況にあります。つきましては、OB・OGの皆様からご支援・ご援助賜りたくご案内した次第でございます。私どもの活動にご賛同していただける方は、以下のQRコードから詳細をご確認ください。ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、振込方法やその他のご質問がございましたら、以下の連絡先までお気軽にお問い合わせください。

◎問い合わせ先／hokusuifes.ouen@gmail.com

寄付申し込みフォーム：<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeZan6efbvaKd6wjBzf8fFqLqZlbbi-WI3FsP6ulpAbRuTz2A/viewform?usp=dialog>



特集：北水ブックス大特集

2018年8月から海文堂出版株式会社より刊行されている、その名も「北水ブックス」。北海道大学水産学部の研究者が中心となって（ときには現役学生も！）水産科学の魅力を語りつくす、まさに“北水の今”が詰まったシリーズ刊行物です。新聞の紹介記事や、学会等で函館にお立ち寄りの際などにご覧になった方も多いかもしれません。北水ブックスは2026年7月現在、全12冊が発売され、以下続刊予定です。

今回は、出版社である海文堂出版様、および本シリーズの編集を担当されている同社岩本登志雄様の全面協力の下、岩本様へのインタビューとともに、全冊を発行順にご紹介します。

編集 岩本登志雄様インタビュー（聞き手：事務局編集部 石原千晶（平22海生））

—北水ブックスが企画された経緯を教えてください。

岩本：ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、弊社（海文堂出版：図1）はもともと船員さん向けの資格関連図書や、商船系大学・商船高等専門学校向けの教科書といった、海事図書を専門とする出版社です。そのほか、水産高校向けの教科書などもかなりの量を手掛けてきましたが、どちらかというと工学系に強い会社ですので、北水ブックスの企画が立ち上がる2017年ごろまで、いわゆる一般向けの水産・生物系の書籍はほとんど刊行していませんでした。このような背景から当時の弊社では、社長を中心に、教科書ではない、水産・生物系の一般向け新刊書籍を出したいという考えがありました。



図1 海文堂出版株式会社ロゴ

同時期に、私事ではありますが、私自身が函館に移住する計画が持ち上がりました。その流れで北海道大学水産学部のことを知り、また、北大出版会はあるものの、水産学部の先生方の著書がほとんどないことに気づいたんです。水産学部のホームページを拝見すると、教員の皆さまは非常に興味深いご研究をされていて、おしよろ丸などの船舶や、七飯や臼尻の実験所、海洋センター（注：函館市国際水産・海洋総合研究センター）など、水産学部に関連した研究施設も函館周辺にたくさんあることが分かりました。

もっとも、このようなことを同窓会誌で申し上げるとお叱りを受けるかもしれませんが、残念ながら北大水産学部の存在は、全国的に見ればまだあまり知られていないと感じていました。本当にもったいないことです。そこで、水産学部の先生方に書籍の執筆を依頼できないかと考えました。

—岩本さんご自身は北水OBではありませんが、お話はどのように？

岩本：私が以前に担当した仕事の一つに水産高校向けの検定教科書の編集があるのですが、その執筆者のおひとりとして、当時函館水産高校にいらした我妻先生（我妻雅夫・昭52ゾ）に大変お世話になりました。その後も懇意にさせていただいておりましたので、まず先生に「北大水産学部を題材にした書籍を出版したい」と相談してみたんです。すると、本当に喜んでくださって、ぜひやるべきだと。あとから知ったことですが、我妻先生も北大水産学部の卒業生だったんですね。それからすぐに当時の水産学部長だった安井先生（安井肇・昭55ゾ）をご紹介いただきました。

—北水OBが企画の発足に大きくかかわっているんですね。

岩本：そうです。我妻先生は本当に仕事が早い方でした。当時の記録を読み返すと、2017年5月4日に私が先生にお会いして、この件について初めてご相談させていただいたのですが、5月10日には、安井先生と面識があった鶴沼ワカさん（注：元函館キャンパス医務室勤務）と共に安井先生を訪ねられ、おそらくお二人は初対面だったと思うんですが、北水ブックス企画についてぐいぐい安井先生にお話しくださったようです。安井先生にもご興味を持っていただけたようで、その翌日には、私からも安井先生にメールをお送りしました。

実際に私が安井先生とお会いしたのは7月でした。安井先生も、たとえば東京海洋大学は他社さんから本が出ているけれど、北大水産学部にはそうしたものがないので、やってみたい、ということでした。弊社は水産系書籍としては主に教科書を手掛けてきましたので、そのノウハウを生かして、一般向けの教科書というか、水産学部の先生方がご執筆される少し硬めの書籍などはいかがでしょうかと提案してみたのですが、それはつまらないですねと言われてしまいました。逆に、水産学部はフィールドワークを重視しているので、各教員に全面的に裁量を任せた上で、フィールドの面白さを伝えるシリーズにしてはどうか、とご提案いただきました。

—まさに、北水ブックスそのものですね。

岩本: そうですね。安井先生が北水ブックスの核となるコンセプトを作ってくださったんですよ。この後、水産学部のオープンキャンパスや公開講座を聴講させていただくなかで、シリーズの具体的なイメージを固めていきました。つまり、読者層としては高校生くらいからを想定しつつ、一般の方が読んで楽しめること、何よりもシリーズを通して、北海道大学水産学部に興味を持ってもらえるような書籍であること。フィールド研究のワクワク感・ライブ感を伝えるなら、やっぱりオールカラーで作りたい……、そんな感じでしょうか。その後、先生方向けの説明会や社内での協議を経て、北水ブックスの発刊計画がまとまりました。

—そして、2018年8月6日、北水ブックスの第1弾となる『海をまるごとサイエンス（通称“海まる”）』（図2）が世に出るわけですね。



図2 第1弾『海をまるごとサイエンス』表紙

岩本: 発刊が決まってから、実際に出版されるまでは本当に早かったです。第1回の企画会議は2018年1月9日でした。松石先生（松石隆・特別会員）に委員長になっていただき、どんな本がいいか、どの先生に原稿をお願いできそうかといったことを詰めていきました。その際、会議のメンバーだった和田先生（和田哲・平4ゾ）から、シリーズの第1弾、あるいは早い段階で、北大水産学部の全体像をイメージできるような本があるといいとのご提案があり、それが“海まる”につながったわけです（注：本書は水産学部教員11名による共著、図3）。

目次

- 第1章 海に棲む哺乳類に会いにいこう（三谷曜子）
- 第2章 叫びたくなるサケの凄技！：母川副産の解明を目指す（工藤秀明）
- 第3章 諸事情により海に下らないサケ・マス（清水宗敬）
- 第4章 殖えない魚を殖やしたい！：難産産魚種への挑戦（井尻成保）
- 第5章 水中で身体測定：画像処理技術で魚の成長を把握する（米山和良）
- 第6章 動物が好きな人へ：行動生態学をヤドカリで紹介する（和田哲）
- 第7章 海面の凸凹は海の天気図（上野洋路）
- 第8章 北極海から氷がなくなる？！（野村大樹）
- 第9章 小さな生き物から地球を知る（松野孝平）
- 第10章 覗いてみようミクロな世界：海の極限環境微生物を科学する（美野さやか）
- 第11章 海の遺伝子で夢をつくる？！（稲田雅紀）

図3 『海をまるごとサイエンス』目次

通常、原稿がすべてそろってから実際に書店に並ぶまでには、およそ3か月かかります。“海まる”は8月に出版されましたので、逆算すると、先生方には5月のゴールデンウィーク前後に原稿をご提出いただいたことになります。安井先生のコンセプトどおり、先生方ご自身の「書きたい」というご意思を第一に、自由に書いていただきました。後になってあらためて実感したのですが、フィールドをご専門とされているからでしょうか、水産学部の先生方はこれまで私がお付き合いしてきた他分野の専門の方々と比べても、本当に忙しい方が多いんです。船にたくさん乗られていたり、調査のために何か月も各地を飛び回っていたり……。 “海まる”をご執筆くださった先生方は、「内容も自由でしだし、文字数も多くなかったので大丈夫でしたよ」とおっしゃっていただきましたが、そんなご多忙の合間を縫って、最初の会議からわずか5か月で原稿がそろって、本当にありがたいことでした。

—一般向け書籍、ということでちょっとしたこだわりなどはありましたか。

岩本: 最初に申し上げた通り、私自身の編集経験も含めて、これまでの弊社の刊行物はそのほとんどが固い教科書でしたが、“海まる”は一般向けを意識してレイアウトなども工夫しました。正直センスもノウハウもなく、勝手もまったく違いましたが、思い切って余白なしで写真を配置したみたり、見出しのデザインに凝ってみたり、読みやすくシンプルなのを心がけながらも、随所に工夫を盛り込んだつもりです（図4）。また、背表紙の上部にはロゴを配置しました。これからシリーズが続刊していくなかで、本棚にずらっと並んだらインパクトがあるかなと。北水ブックスはシリーズ刊行物ですので、次の本からは基本的に“海まる”を踏襲したレイアウトになります。かなりの試行錯誤でしたが、何事も最初が肝心だと思って取り組みました。



図4 “海まる”各章のタイトルロゴをまとめたもの。

一方、私が科学的な内容に疎いものですから、“海まる”の表紙画像として先生方からご提供いただいた写真の配置を考える際に、どうしても「写っているものの分かりやすさ」や「見栄え」を優先して並べてしまった部分はあります（図1参照）。先生によってはご自身の写真の扱いに物足りなさやご不満を感じた方もいらっしゃるかもしれませんが、一般向けの見せ方を意識した、ということでご容赦いただければと思います。

—それでは、北水同窓会の方に見ていただきたいこだわりはありますか。

岩本:それはもう「裏表紙」です(図5)。書籍を手にする機会があれば、ぜひご覧いただきたいです。表紙はウェブでも見ることができますが、裏表紙がどんなデザインなのかはご存じない方も多いと思います。このように、中央に北水のロゴを配置しています(図5)。これについても、当時の水産学部の事務の皆さまのおかげで、北水マークの正式なデザインがちょうど“海まる”の刊行に間に合い、無事に掲載することができました。

実は北水ブック스에このマークを付ける、というのも我妻先生のアイデアです。このマークは北水関係者にとってとても愛着のある大事なシンボルだから、これを付けたらすぐ売れるよ!とおっしゃっていただいて。実際に、本シリーズは北海道でよく読まれています。たとえば、道内ではいろいろな地域の図書館に北水ブック스가所蔵されています(注:函館市や北斗市の図書館にもあります)。



図5 北水ブックス裏表紙と中央の「北水マーク」

—北水ブックスの反響を教えてください。

岩本:とても嬉しいことに、北水ブックスを見て北大水産学部に進学を決めた、あるいは、こういう研究をしている先生がいると知ったのでその先生の研究室に進んだ、といったお話をいただいています。高校生や若い方々に読んでいただいて水産学部に興味を持ってもらえれば、という思いで企画しましたので、まさに狙い通りというか、やっぱり先生方の研究が持つ面白さ、素晴らしさの賜物だと思います。北水ブックスの刊行が、一人でも多くの方に水産学部の魅力やすごさを知ってもらおうきっかけになっていれば嬉しい限りです。

メディアへの露出という点では、弊社はもともと海事新聞に広告枠を持っておりますので、そこで北水ブックスを紹介しています。加えて北水ブックスでは、“海まる”に始まり、これまでに何冊も、水産経済新聞に書評を載せていただきました。これは、新聞社の川邊さん(川邊一郎・平3ゾ)が工藤先生(工藤秀明・平3ゾ)のクラスメートだったことから、工藤先生から依頼してくださったと記憶しています。あらためて、北大水産学部の皆さまのつながりやご縁の強さを感じますね。それから、松石先生がご自身の

著書(図6)と北水ブックスのシリーズについて函館のFMラジオでお話されるというので、興味本位でついていったら、なぜか松石先生のゲストとして放送席の隣に座ることになり、冷や汗をかいたこともありました。



図6 第2弾『出動! イルカ・クジラ110番』表紙

反響とは少し違うかもしれませんが、今村先生(今村央・昭63ゾ)のご著書(図7)はSpringer社から英語版の刊行が決まっています。北水ブックス初の海外展開です。本書の表紙は先生が描かれた素晴らしい標本画が元になっているのですが、もともとモノクロだったものを、息子に標本写真をもとに彩色してもらいました。今村先生には大変喜んでいただき、英語版の表紙もこの図版になる予定です。



図7 第3弾『魚類分類学のすすめ』表紙

—最後に、メッセージなど。

岩本:北水ブックスは、主に海事・工学系の専門書を出版してきた弊社にとって未開拓の水産・生物系書籍であり、また一般向けの図書という点でも、非常に大きなチャレンジとなりました。水産学部の先生方のご尽力により、これまで12冊を無事に発刊することができ、実は第13弾も完成間近となっています(下記参照)。

もちろん、水面下で進行中の原稿もいくつもありますが、正直に申し上げれば、北大水産学部には本当に素晴らしい研究がた

くさんあり、担当者として「まだ12冊しか出せていない」という残念な思いはあります。しかし一方で、北水ブックスをきっかけに、大学外の研究者の方から企画のお話をいただくなど、新しい生物関連書籍をいくつも出版することができました。

当初は北大水産学部をより多くの方に知っていただきたい、という思いで始まった企画でしたが、海文堂出版にとっても、水産・生物分野に進出する大きな契機となり、大変ありがたく思っています。一方で、弊社は残念ながら宣伝があまり上手とはいえません。ぜひ、北水関係者の皆さまだけでなく、周囲の方にも勧

めていただければ幸いです。

編集者人生の終盤に良い経験をさせていただきました。

—ありがとうございました。

全12刊行物の紹介

岩本様による紹介文とともに、記念すべき第1弾から順に全12冊を掲載します。各書籍の詳しい内容については、各記事横のQRコード先のウェブページをご参照ください(海文堂出版のページに飛びます)。なお、一部の書籍については、北海道大学のオンライン教材サイトである“LASBOS”でも内容の抜粋を読むことができますので、そちらのQRコードも掲載しています。

LASBOSとは:

Learning and Study by Balance de Ocean Systemの略。函館キャンパス内にある「北海道大学 地域水産業共創センター」が運営する、海と生き物を学ぶオンライン教材サイト。水産学部をはじめとした北海道大学の海に関する研究や研究室の紹介のほか、授業や実験・実習を疑似体験できる動画などを公開している。在学生の活躍や卒業生へのインタビューなどのコンテンツもある。



LASBOSトップページ



LASBOS YouTube



地域水産業共創
センタートップページ

第1弾: 2018年8月6日発行

海をまるごとサイエンス ～水産科学の世界へようこそ～

北大水産学部の研究者が中心となって水産科学の魅力を語る「北水ブックス」創刊。最新の研究や活動を、オールカラーで、ライブ感、わくわく感たっぷりに紹介します。第1弾は11人の共

著。クジラやイルカ、サケ、チョウザメ、ヤドカリから微生物まで、さらに海の渦、北極海、深海底、メタゲノムの話など、興味深い話題満載です。



第2弾: 2018年11月9日発行

出動! イルカ・クジラ110番 ～海岸線3066kmから視えた奇鯨の科学～

海岸に打ち上げられたクジラがいたら、現地に駆けつけ貴重な研究試料を採取する。網にかかったイルカがいれば、一時保護し海へ帰す。そんな活動の中心となって奮闘している

著者が、学生とともに北海道の海岸線3066kmを駆け巡り、積み重ねてきた調査の実際、驚きのエピソード、そこから生まれた研究の数々を紹介する。



第3弾：2019年6月25日発行

魚類分類学のすすめ ～あなたも新種を見つけてみませんか？～

分類学って難しそうだし、デスクワークなのでは？と思ったあなた、まさに「目から鱗」間違いなし！

新種発見のワクワク感、世界を巡る標本観察の旅、名前を付けるときのとても面倒な決まり事、標本づくりやスケッチのテクニックから論文の書きかたまで、興味深い話題が満載です。



(LASBOS)

第4弾：2020年4月10日発行

北海道の磯魚たちの グレートジャーニー

北海道の磯魚たちは、いつ、どこからやってきたのか。さまざまな試練をどのようにして乗り越えて、生き残ってきたのか。その謎を解明するために北太平洋各地の海を潜った調査の様子と、魚たちの興味深い生態を紹介する。水中カメラマン佐藤長明氏撮影の40数枚を含む160枚を超える写真を掲載。10本の動画も視聴できる。



第5弾：2020年9月10日発行

プランクトンは海の語り部～変わりゆく極域～

一貫して極域のプランクトンを研究し続けている著者が、いま北極海、南極海でどんな環境の変化が起きているのか、プランクトンの調査を通して解説する。観測現場での体験、タスマニアでの留学生活など、興味深いエピソードも満載。動物プランクトンの美しい写真57枚をまとめたミニ・プランクトン図鑑も収録。



(LASBOS)

第6弾：2021年7月15日発行

凍る海の不思議 ～インドア派研究者の極域奮闘記～

氷の海の役割や不思議な現象の仕組み、観測・研究の楽しさ、大変さを、ありのまま、ライブ感たっぷりにお伝えします。著者や仲間が撮影した珍しい、美しい、貴重な写真が満載。いろんなエピソードを紹介するコラムも興味が尽きません。どうぞ、極域の魅力を存分に味わってください。



(LASBOS)

第7弾：2022年3月15日発行

卓越年級群～カレイとタラの生残戦略～

「お祈りしていても資源は増えない」。卓越年級群（著しく生き残りの良い学年のこと）の発生機構を解明し、人手と費用がかかる種苗放流に頼らない資源増大法の発見を目指す著者の研究を、水産科学分野に興味のある高校生から研究者、水産関係者、釣り好き・魚好きの人まで、幅広い読者に向けて解説。著者を支え、研究室で卒業研究や論文として成果を上げてきた学生たちの集大成でもある。



(LASBOS)

第8弾：2022年8月30日発行

ヤドカリに愛着はあるが愛情はない

海なし県で育った著者が、ふとしたキッカケでヤドカリと出会い、大学4年生のときから修士、博士時代を通じて現在まで、メスをめぐるオス同士の闘争行動にひたすら取り組み続けてきた日常を綴る研究体験記。フィールドで、研究室で、海外の学会での悲喜こもごもが、まるで一緒に体験しているかのように伝わってきます。



(LASBOS)

第9弾：2022年10月10日発行

海で身体のをすべてを耳にする

～ニシンと鬼ごっこ、マグロを抱きしめる、迷子のウミガメ～

漁法や計測に焦点をあてた研究を続けている著者が、感じてきた楽しさはもちろん、つらさ、さみしさも詰め込んだ本。「これから研究者を目指す人たち、海や水産に関わろうとする人たちの気持ちに寄り添って、背中を押したい」「こんな世界や可能性があることを想像してワクワクしてほしい」という著者の気持ちがあふれています。



第10弾：2023年7月26日発行

AIが切り拓く養殖革命

～北大×ソフトバンクのチョウザメプロジェクト～

養殖におけるAIの応用について、解剖学的手法も用いたデータ収集に始まり、CGオブジェクトの作成、水中環境のシミュレーション、ディープラーニングにより水槽の映像からチョウザメを自動検知し、尾数のカウントに成功するまで、実際の作業の流れに沿って、興味深い画像や動画、そして失敗談も交えて、具体的かつ詳細に解説します。



第11弾：2023年10月6日発行

道南おさかな図鑑

北海道新聞夕刊「みなみ風」の連載コラムに加筆・修正を加えて書籍化。北大水産学部の先生16人が、タラ、ホッケ、カレイ、ゴッコ、サケ他40種について、生態を中心に、写真と共に楽しく紹介します。道南ですから、魚ではありませんがイカ、タコ、ウニももちろん登場。魚好きの「もっと知りたい!」に応えてくれる本。



第12弾：2025年10月20日発行

ぼくらは航海しない

～水産学部・動物生態学研究室での卒業研究体験記～

7名の学生さんが、卒業研究体験を、自由奔放なスタイルで公開。悪戦苦闘のなかで新発見に出会う様子や、そのときの心情が描かれています。大学生の生活や、研究室というものの雰囲気も感じ取れそう。研究対象として登場するのは、巻貝、魚のあくび、

フジツボ、ヘビトンボの幼虫、イワナ、吸虫、ヒトデと、バラエティ豊か。



近刊情報

特集の最後に、完成間近の北水ブックス第13弾、『鰻をめぐる冒険(仮)』(著者：萩原聖士・特別会員)をご紹介します。本書は、萩原先生の学生時代の恩師、同門の先輩、最後に先生ご自身が博士学生として奔走した、ウナギをめぐる数々のフィールドワークを語りつくす、まさに北水ブックスの王道といもいえる一冊(になる予定)です。



概要

自然大好き、魚大好き、適度に学び、少々怠惰。そんなフツーの理系大学生だった私が大学院進学先を選んではしまったのは世界最強の鰻ラボだった。何もわからないまま偉大な師と先輩の後について、「ニホンウナギの産卵場の発見」「世界で70年ぶりの新種ウナギの発見」という歴史的な科学の冒険に立ち会う。そして、熱帯のジャングルでウナギを集める自分の冒険が始まった……

ぜひ、北水ブックスをお手に取り、“北水の今”、そして皆さまの北水での日々の思いを馳せていただければ幸いです。

北水同窓会総会・懇親会報告

前幹事長 高津 哲也(昭63ギ)



写真1：参加者集合写真

去る令和8年5月23日(土)、名古屋市のウインクあいちにおいて、本同窓会の総会と懇親会が開催され、57名の皆様にご参加いただきました。

総会に先立ち、横山清会長から、会員の皆様の日頃からのご協力に対する感謝と、今後の協力要請について述べられました(写真2)。続いて本年4月から水産科学研究院長に就任された藤森康澄名誉会長からは、北大の人材養成をはじめとする様々な取り組みについてご紹介いただき、北大150周年に向けたご協力の依頼について述べられました。続いて事業報告および決算報告が、幹事長と各担当幹事から報告がされました。各議題は異議なくご承認いただきました。本年度の議題のポイントは会費まとめ払い開始から1年が経過し、財政状況が改善したこと、新名簿を発行できたことの2点です。また、令和8年2月に発行された新様式の会員名簿をご購入でない方は、余部を北水同窓会の事務局から会費+5,000円でお買い求めいただけること※について本部幹事を代表して、アナウンスさせていただきました(※その際は、委託会社の「サラト」ではなく、直接に北水同窓会本部にお申し込み下さい)。

総会に引き続き、昭和41年(1966年)に水産増殖学科を卒業された、自然科学研究機構基礎生物学研究所名誉教授の長濱嘉孝先生に「サカナの生殖メカニズム～基礎研究と応用研究～」についてご講演を賜りました(写真3)。1966年に山本喜一郎先生が東北地方の発電所近くで「下りウナギ」が生息している情報を得て、これをきっかけに北大水産の

ウナギの人工ふ化に関する研究が始まったこと、1974年にネイチャー誌に「ウナギの人工ふ化に成功」の論文が掲載されましたこと、長濱先生の大きな業績ではサケ類の卵成熟を促すステロイドホルモンを同定し、その後ウナギをはじめとする魚類の成熟にも応用されるに至ったことを含め、様々な成果をご紹介いただきました。当時のウナギの人工ふ化には卵巣・下りウナギ・初期発生期の3つの大きな課題を抱えており、北大の淡水増殖学講座を中心として多くの研究者の努力によってこれらを克服し、2026年5月には完全養殖ウナギを約5,000円で出荷するまでに至ったことをわかりやすくご紹介いただきました。

懇親会は昭和41年水産製造学科卒の兼崎英勝様の乾杯



写真2：総会開会ご挨拶、横山清会長(昭35工)



写真3：講演、長濱嘉孝先生（基礎生物学研究所名誉教授、昭41ゾ）

のご鳳声で始まり（写真4）、会員同士の旧交を温めることができました。中には卒業以来30数年ぶりの再会を喜ぶ場面もありました。最後は「水産放浪歌」と「都ぞ弥生」を斉唱し（写真5）、昭和42年漁業学科卒の藤井洋治様の一本締めで散会となりました。

ご参加いただいた皆様に対して、この場をお借りしてお礼を申し上げます。特にご講演を賜った長濱先生と、総会・懇親会をご準備・円滑に進めていただいた愛知県支部の皆様へ深く感謝を申し上げます。なお、当日の参加者皆様へのお土産は、小島茂樹副支部長（昭和61年水産化学科卒）からの差し入れで、当地域を代表する「えびせんべい」（津多屋）であった事を付け加えます。次回の令和9年の総会は、函館支部の皆様の支援・協力により函館で開催予定です。皆様におかれましては多数の参加いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、私の幹事長職を支えていただいた本部幹事の皆様に、ここに厚くお礼を申し上げます。



写真4：懇親会乾杯、兼崎英勝様（昭41セ）



写真5：水産放浪歌斉唱

北水同窓会総会の報告

- 開催日時:令和8年5月23日(土) 16時30分より
- 会場:ウインクあいち 11F 中会議室1103

■定期総会次第

- 1.開会の辞 副幹事長 山崎 浩司(平2食)
- 2.会長挨拶 会 長 横山 清(昭35エ)
- 3.名誉会長挨拶 名誉会長 藤森 康澄(特別会員)
- 4.議長選出
- 5.議案第1号

令和7年度事業経過報告および会計決算報告

(1)一般経過報告

幹事長 高津 哲也(昭63ギ)

(2)庶務部報告(資料1)

庶務部 清水 宗敬(平3ギ)

(3)編集部報告(資料2)

編集部 石原 千晶(平22海生)

(4)会計部報告(資料4)

会計部 井尻 成保(平4ゾ)

(5)組織部報告(資料3)

組織部 平松 尚志(平5ゾ)

(6)会計監査報告

監 事 向井 徹(昭61ギ)

4.議案第2号

令和8年度事業計画および予算案

(1)役員改選案(資料5)

庶務部 清水 宗敬(平3ギ)

(2)事業計画案

幹事長 高津 哲也(昭63ギ)

(3)第105回(令和8年度)定期総会開催地

(函館)について

幹事長 高津 哲也(昭63ギ)

(4)予算案

1.会計部予算案(資料6)

会計部 井尻 成保(平4ゾ)

2.編集部予算案(資料7)

編集部 石原 千晶(平22海生)

3.組織部予算案(資料8)

組織部 平松 尚志(平5ゾ)

5.その他

6.閉会の辞 副幹事長 山崎 浩司(平2食)

■令和7年度 庶務部報告(資料1)

1)新入会員数

海洋生物科学科	52名
海洋資源科学科	50名
増殖生命科学科	44名
資源機能化学科	45名
大学院(他大学、他学部出身者)	
修 士	16名
博 士	10名
合 計	217名

2)本年度物故者(令和7年度親潮掲載分)

正・準会員	61名
特別会員	1名
合 計	62名

3)会員現在数(3月10日現在)

正・準会員総数	17,302名
物故正・準会員数	4,029名
正・準会員現在数	13,273名
(内準会員数)	(13名)
特別会員数	55名
会員数合計	13,328名

4)新入会員を含めた会員現在数(3月10日現在)

合 計 13,545名

■令和7年度 編集部報告

(親潮発行)(資料2)

	号数	発行年月日	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
予 算	325号	令和7年8月	本誌 28頁 (内カラー 11頁)	7,800	1,050,000	※1
	326号	令和8年3月	本誌 28頁 (内カラー 11頁)	7,800	1,050,000	※1
	合計		56	15,600	2,100,000	
決 算	325号	令和7年8月5日	本誌 32頁 (内カラー 14頁)	7,700	1,202,740	※1
	326号	令和8年3月5日	本誌カラー 24頁 (内カラー 8頁)	7,700	880,880	※1
	合計		56	15,600	2,083,620	

※1 印刷会社:南三和印刷 印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む

令和7年度 組織部報告

(名簿会計)(資料3)

	項 目	予算額	決算額	摘 要
収入	前年度繰越金	1,202,370	1,202,370	
	受取利子		224	
	合 計	1,202,370	1,202,594	
支出	名簿購入費		800,000	
	デジタル索引代		100,000	
	次年度繰越金	1,202,370	302,594	
	合 計	1,202,370	1,202,594	

(繰越金の内訳 ゆうちょ銀行 302,594円)

令和7年度 会計部報告 (資料4)

1) 一般会計決算報告

	項 目	予算額	決算額	摘 要
収入	前年度繰越金	2,168,082	2,168,082	
	会費	6,800,000	12,208,000	予算1700名 ※
	親潮広告料	160,000	120,000	
	雑収入	100,000	333,474	
	合 計	9,228,082	14,829,556	
支出	親潮印刷費	2,100,000	2,083,620	(資料2)
	通信・運搬費	2,000,000	2,082,302	親潮発送費2回分含む
	総会旅費	800,000	800,000	愛知開催
	組織強化費	600,000	502,700	
	ホームカミングデー経費	150,000	98,650	
	備品費	30,000	0	
	消耗品費	130,000	129,232	
	会議費	30,000	30,000	
	振替手数料	220,000	182,629	
	事務嘱託費	2,320,000	2,312,144	
	備人費	10,000	0	
	H P 維持費	80,000	75,350	
	雑費	20,000	18,808	
	OA機器整備費	50,000	50,000	積立
	予備費	688,082	0	(資料3)
	次年度繰越金		6,464,121	
	合 計	9,228,082	14,829,556	

収支差引額(令和8年度に繰越) 6,464,121円
 (繰越金の内訳: 銀行預金 6,248,611円、現金 215,510円)
 ※決算1271名 内訳 単年度払い 1064名: 4,256,000円
 まとめ払い 207名: 7,952,000円

2) OA機器整備費(積立)決算報告

	項 目	予算額	決算額	摘 要
収入	前年度繰越金	54,292	54,292	
	一般会計より積立	50,000	50,000	
	受取利子		30	
	合 計	104,292	104,322	
支出	プログラム修正		38,000	
	パソコン修理		12,000	
	次年度繰越金	104,292	54,322	
	合 計	104,292	104,322	

(繰越金の内訳 ゆうちょ銀行 54,322円)

3) 特別会計決算報告

	項 目	予算額	決算額	摘 要
収入	前年度繰越金	10,319,734	10,319,734	
	定期預金(マリンバンク)利息		9,412	
	合 計	10,319,734	10,329,146	
支出	次年度繰越金	10,319,734	10,329,146	
	合 計	10,319,734	10,329,146	

○特別会計資産内容

項 目	資 産 額	摘 要
郵便定期貯金2口(新規)	5,380,000	
銀行定期預金(マリンバンク)1口	4,949,146	
合 計	10,329,146	

会計監査報告

北水同窓会の令和7年度における会計監査を実施した結果を下記のとおり報告致します。

記

- 監査対象期間 自 令和7年3月11日
至 令和8年3月10日
- 出納簿は、関係書類と対査の結果適正である。
- 現金及び預貯金は、出納簿に照合し適正である。

以上

令和8年3月24日

監 査 鈴木 幸 (印)

監 査 向井 徹 (印)

■令和8年度 役員改選案(資料5) [○は新任]

会 長

横 山 清(昭35エ)

名誉会長

○藤 森 康 澄(特 別)

副 会 長

吉 野 生 壮(昭37ゾ)

樋 口 達 夫(ㄥ50食)

代表理事

○都 木 靖 彰(昭59ゾ)

学内理事

岸 村 栄 毅(昭60化)

向 井 徹(ㄥ61ギ)

水 田 浩 之(ㄥ61ゾ)

高 津 哲 也(ㄥ63ギ)

安 藤 靖 浩(ㄥ63化)

今 村 央(ㄥ63ゾ)

坂 岡 桂一郎(平元ギ)

高 木 力(ㄥ元ギ)

山 村 織 生(ㄥ元ギ)

田 中 啓 之(ㄥ元化)

丸 山 英 男(ㄥ元化)

澤 辺 智 雄(ㄥ元食)

細 川 雅 史(ㄥ2食)

山 崎 浩 司(ㄥ2食)

東 藤 孝(ㄥ2ゾ)

小 林 直 人(ㄥ3ギ)

清 水 敬(ㄥ3ギ)

宮 下 和 士(ㄥ3ギ)

浦 和 寛(ㄥ3ゾ)

工 藤 秀 明(ㄥ3ゾ)

井 尻 成 保(ㄥ4ゾ)

和 田 哲(ㄥ4ゾ)

今 井 圭 理(ㄥ4化)

山 本 潤(ㄥ5ギ)

井 上 晶(ㄥ5化)

平 松 尚 志(ㄥ5ゾ)

監 事

鈴 木 一 幸(昭60ギ)

○高 津 哲 也(ㄥ63ギ)

学外理事

米 田 義 昭(昭34セ)

小 祝 良 介(ㄥ36エ)

河 村 章 人(ㄥ37ゾ)

麦 谷 泰 雄(ㄥ37ゾ)

天下井 清(ㄥ39エ)

木 村 昇(ㄥ40セ)

猪 上 徳 雄(ㄥ41セ)

上 平 幸 好(ㄥ41ゾ)

山 本 勝太郎(昭42ギ)

池 田 勉(ㄥ43ゾ)

仲 谷 一 宏(ㄥ43ゾ)

高 橋 豊 美(ㄥ44エ)

工 藤 昭 彦(ㄥ44ゾ)

志 賀 直 信(ㄥ44ゾ)

山 内 皓 平(ㄥ44ゾ)

三 浦 汀 介(ㄥ45ギ)

三 築 田 満(ㄥ45化)

原 彰 彦(ㄥ46ゾ)

中 林 重 雄(ㄥ47ギ)

目 黒 敏 美(ㄥ47ギ)

近 江 政 斗(ㄥ47食)

坂 本 幸 造(ㄥ48食)

桜 井 泰 憲(ㄥ48ゾ)

吉 田 正 人(ㄥ48ゾ)

吉 野 威(ㄥ49ギ)

飯 田 浩 二(ㄥ51ギ)

平 石 智 徳(ㄥ51ギ)

矢 部 衛 一(ㄥ51ゾ)

上 野 孝 雄(ㄥ53ギ)

清 水 晋(ㄥ53化)

備 前 悟(ㄥ53化)

尾 島 孝 男(ㄥ54化)

木 村 暢 夫(ㄥ55ギ)

広 崎 淳 一(ㄥ55ギ)

正 木 悦 郎(ㄥ55ギ)

川 合 祐 史(ㄥ55食)

宮 岡 秀 昌(ㄥ55ゾ)

安 井 肇(ㄥ55ゾ)

山 羽 悦 郎(ㄥ55ゾ)

西 川 正 一(ㄥ56ギ)

関 秀 司(ㄥ57化)

横 山 信 一(ㄥ58ギ)

鈴 木 一 幸(ㄥ60ギ)

今 野 伸(ㄥ62食)

○亀 山 喜 明(ㄥ63食)

学外幹事

柳 町 琢 也(平4化)

兵 庫 隆 俊(ㄥ5ギ)

鳥 海 滋(ㄥ12資)

岸 元 祐 二(ㄥ15海)

鳥 田 潤 平(ㄥ23増生)

木 間 大 河(ㄥ25海資)

地方理事

(稚内) 風 無 成 一(昭41ギ)

(留萌) 藤 井 貴 宏(平9化)

(紋別) 遊 佐 慎太郎(昭52エ)

(網走) 葛 西 恭 博(ㄥ53ギ)

(根室) 野 別 貴 博(平8ゾ)

(釧路) 穂 積 明(昭47ギ)

(旭川) 角 谷 靖(ㄥ55ギ)

(十勝) 梶 敏(ㄥ44ゾ)

(苫小牧) 木 村 実(ㄥ48食)

(室蘭) 矢 島 清 孝(ㄥ45食)

(札幌) 林 和 明(ㄥ38ゾ)

(札幌) 眞 田 篤 弘(ㄥ43化)

(札幌) 遠 藤 俊 充(ㄥ63ギ)

(小樽) ○黒 島 裕 司(平6ギ)

(余市) 宇 藤 均(昭45ゾ)

(青森) 奈良岡 修 一(ㄥ47ギ)

(八戸) 関 川 順 悦(ㄥ55ギ)

(秋田) 柴 田 理(ㄥ55ギ)

(村山) 山 田 彰 一(ㄥ40ゾ)

(庄内) 佐 藤 洋(ㄥ54ギ)

(盛岡) 藤 本 勝 彦(ㄥ61食)

(宮古) 山 本 敬 久(ㄥ62ギ)

(釜石) 高 橋 禎 一(平15海)

(仙台) 稲 田 真 幾 世(昭53ギ)

(石巻) 小 池 孝 二(ㄥ56ギ)

(気仙沼) 小野寺 健 一(ㄥ53ギ)

(福島) 江 部 栄(ㄥ50ギ)

(茨城) ○別 井 隆 秀(ㄥ58ゾ)

(栃木) 土 居 健 治(昭56食)

(埼玉) 未 定 唯(平24資化)

(館山) 安 田 喜 雄(昭56ゾ)

(銚子) 寺 沢 明(平3食)

(千葉) 佐 藤 正 樹(昭57化)

(東京) ○釜 庭 智 志(ㄥ62ギ)

(神奈川) ○河 村 咲 子(平9ギ)

(新潟) 菊 嶋 武 郎(昭45エ)

(静岡) 木 崎 俊 彦(ㄥ45ギ)

(富山) 岡 田 裕 司(ㄥ49ゾ)

(石川) 池 永 修(ㄥ56ギ)

(福井) 富 藤 浩(ㄥ62化)

(愛知) 伊 藤 宣 雄(ㄥ57ゾ)

(京都・滋賀) 澤 田 中 礼 士(平10食)

(三重) 田 橋 人 司(昭56ギ)

(大阪) 大 橋 慧太郎(平27海生)

(兵庫) 梶 原 清 重(昭55ゾ)

(和歌山) 丸 山 栄 一(ㄥ52ゾ)

(鳥取) 山 本 伸 一(ㄥ50ギ)

(岡山) 鈴 木 正 記(ㄥ55食)

(広島) ○小 林 玉 太 一(平12生)

(島根) 児 年 信 一(昭37エ)

(関門) 萬 野 知 足(ㄥ34ゾ)

(香川) 小 野 知 足(ㄥ34ゾ)

(愛媛)	桑原彰三(昭53ゾ)	(長崎)	征矢野清(昭61ゾ)	(沖縄)	渡辺利明(昭52ゾ)
(高知)	蒲原幸男(々49ギ)	(熊本)	未定	(韓国)	李春雨(平3博ギ)
(徳島)	宮本孝則(平元ギ)	(大分)	武田晴美(昭56ギ)	(中国)	田元勇(々22応博)
(福岡)	未定	(宮崎)	未定	(北米)	三浦明夫(昭53ゾ)
(佐賀)	高橋寛昌(平13海)	(鹿児島)	加藤早苗(平元食)		

令和8年度 本部常任幹事 直通電話番号

市外局番(0138)

幹事	長	○今村 央(昭63ゾ)	40-5539	編集	部	○中屋 光裕(平11生)	40-8821
副幹事	長	○東藤 孝(平2ゾ)	40-5615			石原 千晶(平22海生)	40-5548
庶務	部	○山村 織生(平元ギ)	40-8861	組織	部	工藤 秀明(平3ゾ)	40-5602
		笠井 久会(平12資)	40-8898			○松野 孝平(平20海)	40-5541
会計	部	○宇治 利樹(平18生)	40-8864	事務局		吉田 秀美	42-3681
		駿河谷諒平(平31増生)	40-5546				

令和8年度 会計部予算案(資料6)

1) 一般会計予算案

	項 目	予算額	摘 要
収入	前年度繰越金	6,464,121	
	一般会費	9,160,000	1,000名見込み※
	親潮広告料	160,000	
	雑収入	100,000	
	合 計	15,884,121	
支出	親潮印刷費	2,100,000	(資料7)
	通信・運搬費	2,100,000	親潮送費(2回分)含む
	総会旅費	100,000	函館
	組織強化費	700,000	
	ホームカミングデー経費	150,000	
	備品費	30,000	
	消耗品費	150,000	
	会議費	30,000	
	振替手数料	200,000	
	事務嘱託費	2,580,000	
	HP維持費	80,000	
	雑費	30,000	
	OA機器整備費	50,000	積立
	予備費	7,584,121	
	合 計	15,884,121	

※内訳 単年度払い: 850名 3,400,000円
まとめ払い: 150名 5,760,000円

2) OA機器整備費(積立) 予算案

	項 目	予算額	摘 要
収入	前年度繰越金	54,322	
	一般会計より積立	50,000	
	合 計	104,322	
支出	次年度繰越金	104,322	
	合 計	104,322	

3) 特別会計予算案

	項 目	予算額	摘 要
収入	前年度繰越金	10,329,146	
	合 計	10,329,146	
支出	次年度繰越金	10,329,146	
	合 計	10,329,146	

○特別会計資産内容

項 目	資産額	摘 要
郵便定額貯金2口	5,380,000	
銀行定期預金(マリンバンク)1口	4,949,146	
合 計	10,329,146	

令和8年度 編集部予算案 (親潮発行)(資料7)

号数	発行年月日 (締切り)	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
327号	令8年8月 (6月10日)	本誌 28頁 (内カラー11頁)	7,700	1,050,000	※1
328号	令9年3月 (1月10日)	本誌 28頁 (内カラー11頁)	7,700	1,050,000	※1
	合 計	56	15,400	2,100,000	

※1 印刷会社:(有)三和印刷
印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む。

令和8年度 組織部予算案 (名簿会計)(資料8)

	項 目	予算額	摘 要
収入	前年度繰越金	302,594	
	合 計	302,594	
支出	次年度繰越金	302,594	
	合 計	302,594	

東京支部 同窓会兼新年会の報告

岩井 弘光(昭57ギ)



去る2月9日(月)に、北水同窓会東京支部総会および新年会を開催した。

例年総会を開催している学士会館が建替え工事中とあって、今年は新橋の汐留シティーセンタービル41階のルミヴェール東京クリスタルレジデンスにて開催した。参加者は北水OB84名に加え、ゲストに北大東京オフィスの脇氏の計85名。

幹事長の釜谷氏(平3食)が前年の活動と会計の報告を行った後、支部長の樋口氏(昭50食)が乾杯の音頭を取り同窓会新年会となった。樋口氏は、乾杯の挨拶で日本のGDPがピーク時には世界の17%を占めたにもかかわらず、現在では明治時代の3%にほど近い4%まで下がっている事例を引き合いに、いまこそ北大の建学の精神が現役だけでなくOBにも求められていると、出席者に一層の奮起をうながすことばを投げかけた。

41階という高層ビルの窓から都会の夜景を楽しみながらの同窓会は大いに盛り上がった。締めでは水産放浪歌を高田氏(昭60ギ)の前口上で、都ぞ弥生

は青木氏(昭54ギ)の前口上で皆で歌ったのちに増元氏(昭54ギ)がエールを切った。最後に所用で欠席となった副支部長の松本氏(平5ギ)に替わり幹事の岩井(昭57ギ)が中締めを行った。

来年度の北水同窓会東京支部総会および新年会は、2027年2月2日(火)もしくは2月8日(月)に開催する予定(場所:銀座ライオンクラシックホール)で、年内には案内を行う。





参加者は以下の通り(敬称略)

浅倉、石川、角田、新田、西川(昭36セ)、下村(昭41ゾ)、金田(昭46ギ)、高野(昭49化)、吉田(昭50ギ)、樋口(昭50食)、青木、増元、中井、福田(昭54ギ)、秋本(昭55ギ)、菊繁、久保田(昭56化)、菊繁(昭56食)、中田(昭56ゾ)、岩井、西巻(昭57ギ)、滝澤、藤田、山本(昭57化)、中津(昭57ゾ)、菊池、横山(昭58漁)、近藤(昭58化)、西(昭58食)、廣瀬、舟木(昭59食)、牛越(昭59化)、奈良(昭59ゾ)、高田(昭60ギ)、亀井(昭62食)、立野、長本(昭62ゾ)、中川(昭62化)、釜谷(平3食)、樋口(平6ギ)、幅口、山本、中原、半谷、宮内(平8食)、石黒(平8化)、前野(平8ギ)、菅野、磯野(平9ギ)、今村、茶木、鈴木、植田(平10食)、後藤、松永(平10化)、折出(平10ゾ)、福原(平11生)、佐藤、森本(平12生)、宇野、関屋、藤本(平12資)、小島、市原(平13シ)、阿部、鈴木、高橋、石岡(平13資)、徳島(平14生)、中林、松倉(平16資)、鈴木(平17シ)、澤口、藤田(平18資)、前田(平19資)、石川、荒井(平20海)、金川(平20資)、黒沼(平26資化)、陳、佐藤(平26増生)、柿崎(平30資化)、渡邊(平30海生)、渡邊(令3海生)、脇(北海道大学東京オフィス)

樋口先輩の旭日重光章受章のお祝いの会を開催しました。

大村 富範(昭52食)



(左より)阿部修也(昭51食)、大村富範(昭52食)、北村裕司(昭53食)、宮崎嗣博(昭53ギ)伊藤文成(昭53ゾ)宇佐美勝義(昭51ギ)、中村 将(昭46ゾ)、樋口達夫(昭50食)、林 要(平14シ)、林信二(昭52ギ)、鶴岡秀俊(昭52ギ)、田中引太郎(昭52ギ)、二波 衛(昭52化)、曲 健三(昭53食)、伊藤隆宏(昭51食)、若生 昇(昭52ギ)、魚野明彦(昭52食)

クラス会 報告

2月20日、樋口達夫先輩の旭日重光章のお祝いを太平山の会で行いました。

太平山の会は、北水スケート部OBと昭和52年前後卒業の北水卒業生の会で、2月と9月の年二回の開催を30年以上継続している会です。太平山の会の名前は、開催されるお店の名前が太平山だったことで会の名前になりました。以前は茅場町の太平山で25年以上行われていましたが、再開発の影響で茅場町店が閉店になり、数年前から四谷の太平山総本家に場所が移動しました。太平山の特徴は店に囲炉裏があることで、いつも囲炉裏の周りに陣取って、全員の顔が見えて話が出来ます。秋田の食材を使って、日本酒は秋田太平山酒蔵のものです。

お祝いの会は、午後6時からこの会の為に札幌から駆けつけた、曲健三さん(昭53食)の乾杯から始まりました。その後、お祝いのスピーチを伊藤隆宏さん(昭51食)、阿部修也さん(昭51食)、田中引太郎さん(昭52ギ)、鶴岡

秀俊さん(昭52ギ)、北村裕司さん(昭53食)、林 要さん(平14シ)がされました。

参加が出来なかったスケート部の方々からお祝いのメッセージをいただき、披露させていただきました。飯田浩二さん(昭51ギ)、藤島浩晃さん(昭52ギ)、西川正一さん(昭56ギ)、大石敬さん(昭62ギ)、今津樹那さん(現スケート部部長)からいただきました。ありがとうございました。

会も後半になり、お祝いとして、白いアイスホッケースティックを林信二さん(昭52ギ)が手配してくれまして、宮崎嗣博さん(昭53ギ)が「祝 樋口達夫先輩 旭日重光章受勲」のシールを用意して、そのスティックにスケート部OBがサインをしたものを林信二さんから樋口先輩にお渡ししました。その後、樋口先輩からお礼のスピーチをいただきました。会の最後に出席者全員で記念撮影を行いました。太平山の会では毎回、魚野明彦さん(昭52食)に写真撮影をお願いしています。

北水同窓会広島県支部会2025報告 黒田 麻美(平24生資)／中山 奈津子(平15海)



【写真(敬称略):後列左から】伊藤 淳(平22ソ)、小林正記(昭55食)、黒田麻美(平24生資)、羽原浩史(昭55化)、
【前列左から】中山奈津子(平15海)、永井達樹(昭48修漁)、長谷川昭雄(昭52ギ)

北水同窓会広島県支部会2025は、令和7年12月13日(土)午後6時より、広島駅近くの街並みを見渡せる懷石料理店にて開催されました。

羽原支部長のご挨拶および乾杯のご発声により開宴し、今年から初参加となる小林正記氏(昭55食)の自己紹介を皮切りに、参加者7名による近況報告が行われまし

た。皆様それぞれに活発に活動されており、工夫を凝らして実現された海外旅行の体験談や、サッカーなどを通じた青少年育成への取り組みなどが紹介されました。また、多忙な日々を送りながらも皆様が充実した時間を過ごされている様子もうかがえ、互いに刺激を受けるひとときとなりました。近年は若手の参加もあり、幅広い年齢層が集う中で終始和やかな雰囲気のもと、活発な意見交換が行われました。今年の支部会も話が尽きることなく大いに盛り上がり、あっという間に楽しい時間が過ぎ

ました。なお、本会をもって支部長および幹事が交代となりました。羽原支部長にはこれまでのご尽力に深く感謝申し上げます。最後に、来年度も同時期の開催と皆様の健康を願い、再会を約束し、新体制のもと一層活気ある会となることを期待して閉会となりました。

寄稿

後世に自分の名を残すには

佐藤 之紀(昭59ゾ)

2026年3月26日。北海道大学水産学部学位授与式が函館駅前のホテルで行われた。たしか、私たちの卒業式はトド裏（講堂）で行われたような記憶がかすかに残っている。卒業式の前日には北晨寮で友人とともに酒を飲み盛り上がり、友人はその場の雰囲気ノリで頭の髪の毛を剃ってその頭皮にマジックインキでいたずら書きをしたものだから式の当日には参加できなかったとの記憶が残っている。あれから何年たったのだろうか。娘が北水同窓会のメンバーになる歳になったのだから、相当な年月が経っているはずだが実感がない。娘が学部移行で函館に生活拠点を置くとの話を聞いたのも、2年前になるが昨日のように感じる。大学の近くに何軒かストアができていて周囲の様相は私が学生だった時代と若干の変化はあったが、総じて自分の学生時代の環境とほとんど変わっていない。函館キャンパス前の大きな道路向かいのクローズしたままのお寿司屋さんの看板もきれいなままである。ただ、陸橋の下にあったコーヒー屋さんでもう一度豆を買う夢は、残念ながら絶たれた。大学4年次には、よく研究室（生理学・生態学講座）でモカのコーヒーを淹れて研究室の先輩や同期の学生とで一緒に飲んだ記憶が鮮明である。ガーゼで作ったコーヒー粉末こしを使って、“おいしくなれ”と念じると美味なコーヒーになると先輩から指導されたものである。懐かしいことを思い出す機会がいくつも娘が北水の学生となってからは出てきて、娘が在学中のこの2年間は娘のマンションに転がり込んで函館マラソンにも出場したものである。実は、北水同窓会と長い付き合いであり、木村時次郎（昭4ギ）、佐藤京介（昭33セ）、そして私が佐藤之紀（昭59ゾ）であり、今回は娘の佐藤沙紀が資源機能化学科の課程を卒業したことで、親子4代の北水同窓生となった。正確に言うと、木村時次郎の娘（私の母）と父の佐藤京介から私（之紀）が生まれ、私の子が佐藤沙紀ということで4代ということになる。祖父の木村時次郎は、北海道帝国大学附属水産専門部の所属で漁撈科であったことから、おそらくおしょう丸二世に乗船していたかも知れない。実は、私が広島大学（県立広島大学）の教授をしていたころに堀田敬三先輩からおしょう丸の写真の寄贈を受け、今の職場である弘前大学の研究室の壁に額入りのまま写真を飾っている。写真に小さく写っている乗船員が祖父かも知れないと思うと、心にこみ上げてくるもの

を感じ、今も祖父とともに生きている気がしてならない。また、父の京介の名前は北海道帝国大学初代総長の佐藤昌介先生の名前から名付けられたとか、生前の父が話していた。なるほど、訛りのある人がその名前を呼んだら、同じ名に聞こえるかもしれない。さて、親子4代が達成できたら、やはり次は「親子5代をめざせ！」ってことになる。でもこればかりは、達成できるか否かはわからない。私は高校1年生から志望校は北水から揺れ動くことはなかったが、娘は特にこれをしたという確固たる意志はなかったせいか、偏差値によって区分された理系の大学に進むという考えだったようだ。結果は否であったが難関である総合型の入試にチャレンジしている姿を見ていて、たしかに総合型の入試対策をすれば研究者向けのスキルを十分に磨き上げることができるように思われた。親としては娘にも大学の研究者になってほしいと思うが、昨今、純粋に学問をめざすことが困難な環境に大学がおかれてくるのではないかと危惧してしまう場面に出くわす。学問で新たに発見された新事実を経済に応用し、結果として世界の人類の福祉に貢献するならよいのだが、即効性のある研究成果を求められる傾向がこれから強くなりそうな上に実験に没頭する学生に出会うチャンスも低くなりそうな気がする。どの道に進んでも、必ず、よい点と悪い点は出てくるのだが。自分の人生を振り返ったとき、これでよかった！と言えるような人生を過ごしてほしいと願うばかりである。研究者になれば、研究論文の著者となり、名誉なことで後世に自分の名を残せる近道である。でも、娘が研究者にならなくても、「父は我が道を突き進んで生きていた」と娘がきっと後世に伝達していくだろうから、それだけで自分の役割は終わった気がした。学位授与式の後に、娘から私のことを知っている先生方（同期または同じ研究分野の学会でお会いした後輩）とそれぞれ二人で写っている写真がLineで送られてきた。写真が送られてくるなど想像していなかったものだから、「父のことが記憶にありますでしょうか？」と会話のきっかけを作ったと思うので、これで社会に出てどうにかきちんとやっていけるなと思えた。娘はこれから二年間札幌のキャンパスで新たな研究テーマで修士課程に進む。修士の後はどうするのか、時計の針は止まることなく進んでいる。

電気主任技術者独立要件達成に関して

加藤 寛(平7ギ)

私は平成7年4月に漁業学科漁業機械学講座を卒業しバブル経済崩壊後の厳しい社会情勢の中、どのような生き方をするべきか常に自問自答する日々を送っていた。

特設専攻科に進学し、航海士になろうとも考えていたが、家庭の事情によりそれは断念することとなった。特設専攻科志望だったため、漁業電気工学、漁業電気工学実験は履修していたため電気についての基礎知識は割と身についていた。(漁業測器学の飯田教授、向井先生にはお世話になりました。) 氷河期世代ド真ん中のお約束とおり、いろいろな職業を経験したが、人生も後半にさしかかり水産学部で学んだ電気知識を生かし社会に貢献できることはないかと考えていたとき、第3種電気主任技術者という資格があることを知った。調べてみると合格率9%くらいの難関資格であるが、電気の保安管理という社会インフラを支える重要な職務である電気主任技術者という役職につけるといふものであった。しかも再生可能エネルギーである太陽光発電設備等の増加により人手不足とのこと。これしかないと考え、北海道大学受験の時以来の受験勉強を開始してなんとか合格。いざ釧路の太陽光発電へと行った矢先、資格だけの未経験者は採用しないとのこと。まあ、確かに未経験者が足手まといになるのは理解できるが、人となりを見て柔軟に対応してくれないことに苛立ちを感じた。実務経験を積み経験者になる方法はないかと画策しているとき、現在の勤務先であるアイワテクニカルサービスよりお声がかかった。ここは電気主任技術者最大の見せ場である停電試験において使用する各種試

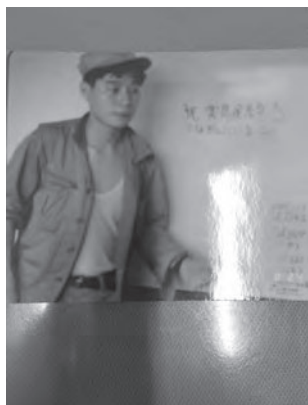
験機を所有し、訓練用継電器も豊富で、内容の濃い実務経験をつむことが可能であった。

さらにこの資格は、5年の実務経験を積むと弁護士のように独立開業(電気管理技術者といいます。)ができることを知り、関東電気保安協会等主催の短縮講習を受講するとこの5年という要件が3年になるので、関東電気保安協会にて講習をうけ3年の実務経験で独立できる権利を得た。2026年4月で3年の実務経験がつくので書類上は独立開業可能であるが、自分でお客さん(電気管理をまかせる人)を探さなければいけないのでしばらくは現在の職場で実務経験をつむ予定である。

おわりに本寄稿文の掲載にあたり北水同窓会本部の吉田さんにアドバイスを頂きました。この場をお借りして感謝申し上げます。



漁業機械学講座所有車両 モスラ号(フィールドワークにて使用)



漁業機械学講座で実験中の筆者



停電試験において技術基準に適合する試験するDGR(地絡方向継電器)付きUGS



停電試験において技術基準に適合する試験するOCR(過電流継電器)

追悼寄稿

内田 民男さん(昭45ギ、昭46特専)の思い出

高橋 孝三(昭47化)



内田民男さんが、2025年2月12日に旅立たれた。享年77歳。2年半前からガンを患っており、回復を目指し懸命に努力し続けていたが、遂に逝ってしまった。社会のリーダーの一人でもあり日米友好の架け橋ともなっていた偉大な人を失った事は、社会にとってもとても大きな損失である。と同時に、かけがえの無い盟友を失ったショックは大きい。

1947年生まれの内田さんは、上川郡和寒町出身、旭川工業高校卒の後、1966年北大入学。民男さんとの最初の出会いは、入学後の教養部1年32組の授業だった。ところが、当時山登りに多忙であった私は、あまりクラスにも顔を出さなかったせいもあり、単にクラスメートとしての認識しか無かった。時は流れて大学紛争後の1970年、通例より半年遅れの4月の変則時期の学部移行と同時に授業が始まった。北晨寮に入寮し2階東側の部屋に入ってから数日後、廊下で民男さんとバッタリ会い懐かしく話が始まった。既に私より2学年先を進んでいた民男さんは、学部はとくに卒業しており特設専攻科生だった。特専生の特権で寮では一人住まいであったのに、親切にも「ベッドが一つ空いているので良かったら移ってこないか」と言われて105号室に入室させて貰った。それからの数週間は毎晩2人で海外事情、特にアメリカの大学の話題で持ちきりだった。私は休学して1968-69年の13ヶ月間381日世界一周旅行をした後だったので、アメリカについては少し知っていた。この旅行のアメリカ部分は、1ヶ月間のニューヨークからカナダおよびルート66経由のロスアンゼルスまでのヒッチハイクだった。民男さんと私は、「将来アメリカに渡る夢」をこの北晨寮時代に育んだ。特専は航海訓練が年の半分程あり、民男さんはおしよ丸や北星丸乗船時にハム無線通信を行っていた。夏のおしよ丸北洋航海Kodiak寄港前後に、カリフォルニア州Orange County (OC)のアメリカ人ハム通信の友人(後のホストファミリー)が出来た。特専を終了し航海士免許も取得したが、アメリカ行きを決めた。彼は渡航費を得るため、1971年に東京葛飾区でホットドック売りのアルバイトを始めた。また、我々夫婦の東京での結婚披露宴にも出てくれた。1年程で旅費は貯まったようで、アメリカ渡航してOCのホストファミリー宅で生活を始めた。最初は、2年制のコミュニティーカレッジ(Fullerton College)に通う傍ら、デイズニールランドで学費稼ぎのアルバイトを続けた。後にカリフォルニア州立大学フ

ラトン校(Cali. State U., Fullerton)に編入学しコンピュータサイエンスを専攻した。その後卒業まで一年を残し中途退学し、現地の海洋計測機器会社にてエンジニアとして働いた。民男さんから聞いたアメリカのコミュニティーカレッジの情報は貴重で、その後の私の人生の礎を築いたと言っても過言では無い。無試験で入学できる事、そして海洋学の講義がある事等は、私の渡米(Grays Harbor College)に繋がり、最終的にアメリカで学士(UW)、修士(UW)、博士(MIT/WHOI)の3つの学位を得て研究所勤務に至る在米20年間の勉学/研究生活の出発点となった。

民男さんの後を追いかける形で私がアメリカ留学を果たした1974年には、ワシントン州アバディーンまで、ご夫妻の新婚旅行も兼ねて彼方のOCよりドライブして来てくれた。一緒に数日間カナダ・バンクーバー島等をキャンピング旅行した。1977年には私の両親と妻を伴い、彼らが住むOCのCosta Mesaを訪ねる機会を得た。また1984年にはボストン出張中の合間をぬって、子供2人が加わった我々家族に会いにわざわざマサチューセッツ州ウッズホールまで駆け付けてくれた。また、今から15-16年前だったか茅ヶ崎の民男さん宅で泊まらせて貰い、朝まで語り合ったこともあった。

民男さんは、1981年に帰国し翌年から1987年まで日揮(株)に勤め、計装制御プラント設計を担当した。この間、クエートに2年間単身赴任した。1987年からは極東貿易(株)に移り、2012年までの25年間勤めた。この間2000年までは、欧州、米国、マレーシア、韓国などへ赴任し計装制御システム、CADセンタービジネス、航空宇宙などを担当した。2000年には、極東貿易よりミシガン州パトルクリークのI I Stanley CO., Inc. に単身赴任の出向となり社長(Director)として自動車関連業務を担当した。2007年には、帰国し極東貿易の執行役員となる。さらに2010年には、関連会社の伊豆の国市所在のABB日本ペーレー(株)の代表取締役となり、2012年に退職するまで見事に役員業務を完遂した。この様にアメリカを始め海外勤務を20年程勤め上げ、職場の周りからも絶大な信頼を得ていた。

民男さんは、Facebook (FB) の常連使用者だった。私がFBに参加した2019年12月には、民男さんは既に相当の年数のFB参加者だった。FB聴衆は主としてパトルクリークのかつての仕事仲間だと思う。内容は全て英語で、私も英語での対応だった。朝夕に色や感触が移ろう茅ヶ崎からの富士山や、季節の美しい花や鳥、さらに満月の月表面の高解像写真は、惹きつけるものが多かった。また、ご自分の病状もCT画像から始まり事細かく、詳細をアップしていた。最初は亡くなる2.5年前の直腸癌のニュースで、手術後は回復が見られたので安心した。しかし、後に転移が見られ、懸命の治療の末悲しい結末となってしまった。

FB上での仲間達の発言を見ても、いかに民男さんが仲間から愛されていた人格者である事がよく分かる。また、大の家族思いの強いこともFBの写真、発言より良く分かる。退職後は、茅ヶ崎市ボランティア協会に所属し表彰状を貰い、また毎年恒例の茅ヶ崎交響楽団ベートーヴェン第九演奏会合唱に参加活動も素晴らしかった。かけがえの無い友人を亡くした悲しみは計り知れない。民男さん、安らかに眠り下さい。

会員死亡通知

小山 嘉幸 (昭22セ) 令和5年 5月26日 ご家族様より	所賀 壮一 (昭39エ) 令和7年 7月 4日 ご家族様より
三上 俊之 (昭22セ) 令和8年 1月31日 ご家族様より	鈴木 孝司 (昭40ギ) 令和7年10月19日 ご家族様より
安井 敬一 (昭24エ) 令和7年 9月11日 ご家族様より	川越 賢二 (昭41ギ) 令和7年12月17日 ご家族様より
山本 清一 (昭26エ) 令和3年 3月14日 ご家族様より	西田 昭久 (昭41ゾ) 令和7年12月 7日 ご家族様より
小山 光 (昭29セ) 令和8年 3月30日 ご家族様より	小島 守之 (昭42ゾ) 令和8年 1月23日 福地 光男(昭45ゾ)様より
川村 康司 (昭32セ) 令和8年 5月14日 ご家族様より	小國 盛稔 (昭45食) 令和8年 4月 増尾 英明(昭35セ)様より
今井 輝 (昭32ゾ) 令和8年 2月15日 ご家族様より	門脇 宏視 (昭45化) 令和8年 2月20日 大槻 知寛(昭45ギ)様より
沢田 光 (昭34セ) 令和8年 1月 5日 米田 義昭(昭34セ)様より	岩崎 良教 (昭45ゾ) 令和7年12月 7日 福地 光男(昭45ゾ)様より
河西 邦夫 (昭35エ) 令和6年 2月10日 ご家族様より	内田 務 (昭45ゾ) 令和8年 5月23日 ご家族様より
東川 隆司 (昭35セ) 令和6年 5月 増尾 英明(昭35セ)様より	宇田 孝一 (昭51ゾ) 令和8年 1月27日 ご家族様より
宮本 善樹 (昭37ゾ) 令和7年12月 5日 ご家族様より	布村 渉 (昭56ゾ) 平成30年 1月 4日 池津 裕文(昭56ゾ)様より
吉田 宣雄 (昭38ギ) 令和5年12月16日 ご家族様より	山田 栄志 (平2ゾ) 令和7年 8月30日 ご家族様より
浅田 允彦 (昭38ゾ) 令和7年 6月 3日 ご家族様より	横尾 哲 (平3食) 令和8年 2月 8日 中島 一也(平3食)様より

※これより【名簿調査ハガキ】での連絡分:(株)サラトからの報告

会員死亡通知

小池 隆雄 (昭19ギ)	工藤 満男 (昭30エ)	畠山 明 (昭37ギ)	広瀬健一郎 (昭44ギ)	熊木 伸夫 (昭51ギ)
菊地 恒夫 (昭22ギ)	佐島 隆治 (昭30セ)	山本 勝 (昭37セ)	林 直美 (昭44食)	今井 俊治 (昭51食)
魚田 昭治 (昭23ギ)	篠田 孝司 (昭30セ)	杉原 滋彦 (昭38ギ)	川野上貞夫 (昭44化)	大井 光宣 (昭52ゾ)
倉林 幹 (昭23ゾ)	沼 美知子 (昭30セ)	長尾 英一 (昭38ギ)	高野 幸枝 (昭44化)	永山 正義 (昭53食)
前田 康德 (昭23ゾ)	吉村 清 (昭30セ)	池田 清二 (昭38セ)	橋場 征代 (昭44化)	橋本 浩二 (昭53食)
杳沢 節三 (昭24セ)	内田 迪也 (昭31ギ)	小野寺善紀 (昭38セ)	安楽 博子 (昭44ゾ)	大野 主康 (昭54ギ)
佐藤 信幸 (昭25ギ)	松岡 茂樹 (昭31セ)	田代 征秋 (昭39ギ)	荒谷 幸治 (昭45ギ)	加藤 淳一 (昭56ギ)
小沢 道昭 (昭25ギ)	民上 義 (昭31ゾ)	中村 昭次 (昭39エ)	田中 晃 (昭45ギ)	井田 朗 (昭57ギ)
飯岡広太郎 (昭25セ)	小橋 保智 (昭32ギ)	小林 正範 (昭39セ)	岡崎喜久男 (昭45ギ)	叶栄 明雄 (昭57ギ)
池本 隆一 (昭25セ)	三幣 英男 (昭32エ)	田山 栄一 (昭39セ)	大脇 寿夫 (昭45化)	菊地 雅敏 (昭59化)
山口 昭佳 (昭25セ)	笠田 隆明 (昭32セ)	鈴木 建次 (昭39ゾ)	加藤 和範 (昭45ゾ)	佐々木邦夫 (昭60修ゾ)
渡辺 祐 (昭25セ)	中嶋 和夫 (昭34エ)	野口 卓三 (昭40ギ)	長浜 英俊 (昭45ゾ)	田村 稔 (昭61化)
坂本 茂 (昭25ゾ)	川村 満 (昭34セ)	渡邊 俊弘 (昭40セ)	長澤 武夫 (昭46ギ)	山ノ下 理 (昭62ゾ)
小中 秀世 (昭26ギ)	鳴戸 智 (昭34セ)	西川 明英 (昭41ギ)	荒木 敬三 (昭46ギ)	鈴木 勲 (昭63ギ)
菅原 巖 (昭26エ)	小坂 淳 (昭34ゾ)	藤咲 豊昭 (昭41ゾ)	三小田温美 (昭47ギ)	喜多 朋子 (昭63化)
津田 清 (昭26ゾ)	柴野 道夫 (昭35セ)	松村 靖 (昭42セ)	山本 省玄 (昭47ギ)	渡部 美香 (昭63化)
阿部 誠 (昭28ギ)	山下三代明 (昭35セ)	兼平 義春 (昭43ギ)	酒井 裕実 (昭47食)	今野 猛彦 (平元ゾ)
三井 洋一 (昭28セ)	古谷 甫 (昭35ゾ)	池嶋 博之 (昭43食)	宮下 隆三 (昭47ゾ)	小関 宏明 (平3食)
赤池 利英 (昭29ギ)	吉崎 勲 (昭35ゾ)	田岡 嘉彦 (昭43食)	檜森 聖三 (昭48ギ)	村田美奈子 (平6化)
川村 義夫 (昭29セ)	佐藤 秀明 (昭36セ)	西村 清治 (昭43食)	三浦 祥司 (昭48化)	梅田 教生 (平7食)
安岡 雄二 (昭29セ)	佐藤 正勝 (昭36セ)	前 賢一郎 (昭43食)	木本 喜幸 (昭49食)	馬場 誠子 (平17シ)
野澤 稔雄 (昭29ゾ)	小林 忠男 (昭37ギ)	梅津美智弘 (昭43化)	差間 正樹 (昭50ギ)	
坂本 藤吉 (昭30ギ)	斉藤 篤 (昭37ギ)	小綿 泰樹 (昭44ギ)	児玉 孝志 (昭50食)	

□学位取得者【令和7年度3月取得】

BROCHUT Fleur Emelyn Christel	Perceptions, attitudes and knowledge regarding the Steller sea lion-fisheries conflict in Hokkaido coastal waters (北海道沿岸におけるトドと漁業の対立に関する認識、態度と知識)
池上 温史	ステレオカメラを用いた養殖魚の成長と行動のモニタリング手法に関する研究
王 梓	Study on the broadband target strength characteristics of Pacific herring (<i>Clupea pallasii</i>) (太平洋ニシンの広帯域ターゲットストレンクス特性に関する研究)
石川 智也	特殊な産卵特性に関連するキアコウ初期生活史の生残戦略
許 回	A Study on the Standardization of Catch per Unit Effort (CPUE) in Longline Fisheries (延縄漁業の単位努力量当たり漁獲量 (CPUE) の標準化に関する研究)
為近(松野) 昌美	Patterns and processes of shaping sex allocation in simultaneously hermaphroditic barnacles (雌雄同体のフジボ類における性配分決定要因)
深澤 藍子	The relationship between size of secondary sexual characters and reproduction in both sexes of the kelp crab <i>Pugettia ferox</i> (オオヨツハモガニの雌雄における二次性徴形質サイズと繁殖の関係)
山下 量平	サケ科魚類およびブリ属魚類における産業応用に向けた精子凍結保存に関する研究
小亀 友也	ふ化放流事業における初期生育環境がサケ稚魚の分子応答と生理特性に与える影響
荒井 那允	ナイルティラピアの性分化開始機構に関する研究
KARN Tippayakraisri	Studies on the Control of Water Mold Infection in Fish Eggs Using Glutaraldehyde (グルタルアルデヒドを用いた魚卵におけるミズカビ病防除に関する研究)
NASIR Sobia	Discovery and Characterization of a Novel Bioactive Lectin from Marine Sponges <i>Aulospongia</i> sp. (<i>Aulospongia</i> 属海綿に由来する新規生物活性レクチンの発見とその構造・機能の包括的解析)
MUTEA Fridah Gacheri	Studies on the production of sex-reversed genetic females (pseudomales) and all-female monosex populations in black rockfish (<i>Sebastes schlegelii</i>) (クロソイ (<i>Sebastes schlegelii</i>) における性転換遺伝雌(偽雄) 及び全雌単一性集団の作出に関する研究)
井筒 彩歌	The insulin-like growth factor (IGF)-IGF-binding protein system in rainbow trout, a model species in aquaculture (養殖魚モデルとしてのニジマスのインスリン様成長因子(IGF)-IGF結合タンパク質系)
GHANI Abdul	Comparison of the potential for biomaterial applications of type I collagens extracted from different fish by-products (異なる魚類副産物から抽出したI型コラーゲンのバイオマテリアルへの応用可能性の比較)
竹内 萌	メダカ単数体由来の生殖細胞の配偶子形成に関する研究
土屋 地郎	Molecular mechanism underlying the N ₂ O-reducing ability of <i>Campylobacter</i> isolated from a deep-sea hydrothermal vent (深海底熱水孔環境から分離された <i>Campylobacter</i> 綱細菌のN ₂ O還元能を規定する分子機構)

【お詫びと訂正】

前号(親潮326号・令和7年度第2号)の学位取得者欄におきまして、「令和7年度3月」の記載がございましたが、正しくは「令和6年度3月」でした。お詫びして訂正いたします。なお「令和7年度9月」に誤りはございません。

□会員異動

○令和8年3月31日付

酒井 隆一 大学院水産科学研究院教授を退職
山口 篤 大学院水産科学研究院准教授を退職
磯田 豊 大学院水産科学研究院特任准教授を退職
大西 広二 大学院水産科学研究院助教を退職
亀井 佳彦 水産学部附属練習船おしよ丸教授を退職
佐藤 太一 水産学部附属練習船おしよ丸助教を退職

○令和8年4月1日付

秋田 晋吾 大学院水産科学研究院准教授に昇任
西村 俊哉 大学院水産科学研究院准教授に昇任
横山 武司 大学院水産科学研究院准教授に採用
菅原 一輝 大学院水産科学研究院助教に採用
高谷 直己 大学院水産科学研究院助教に再任
小林 直人 水産学部附属練習船うしお丸准教授に昇任
砂子間 宣 水産学部附属練習船うしお丸助教に昇任

| 親 | 潮 | 投 | 稿 | 規 | 定 |

【寄稿、支部・会員便り、会員の受賞、ご案内など】

一つの投稿につきA4版・1ページ(2000字程度)までとする。この制限以上の長文あるいは連載を希望される場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また写真はホームページに掲載することもできる。原稿は、同窓会宛に封書で郵送するか、同窓会のメール宛に送付することとする。

【同窓生の声】

各種活動や出版物の告知・紹介、本誌への感想など。個人的な連絡は対象とせず、1記事につき300字以内。同窓会あてのメール(hokusuialumni@gmail.com)にて受け付けます。写真は入れられません。

[編 集 後 記]

今回の特集では、関係各所の多大なるご協力のもと、「北水ブックス」をご紹介しました。北水での研究活動はもちろんのこと、執筆された先生方のご経歴やちょっとしたエピソードなど、読みどころ満載のシリーズです。北水関係者の皆さまはもちろん、多くの方々にお手に取って楽しみいただければ幸いです。

次号「親潮」令和8年度2号(通算328号)の原稿締め切りは**2027年1月10日**とさせていただきます。寄稿につきましては、郵送もしくは電子メール(hokusuialumni@gmail.com)にて受け付けております。その他、支部報告や同期会報告、著者の紹介など、多くの原稿をご投稿下さいますようお願い申し上げます。なお、親潮では同窓の方々の交流形態として「同窓生の声」の広場を設けております。また、本誌に対するご意見や感想なども募集しております。詳しくは投稿規定をご参照ください。

また、支部総会や同期会の開催時の写真や開催案内を北水同窓会のホームページ(<https://hokusui.net>)にて掲載しておりますので、是非ご覧ください。

編集幹事/石原千晶(平22海生)

令和8年8月発行
北 水 同 窓 会
〒041-8611 函館市港町3-1-1
TEL & FAX.0138-42-3681
E-mail:hokusuialumni@gmail.com

相続 離婚 債務整理 交通事故 労働問題 会社顧問

相談料は全て無料です

吉原法律事務所

札幌弁護士会 弁護士 吉原 美智世 (昭和48年増殖学科卒業)

お気軽にお問い合わせ下さい

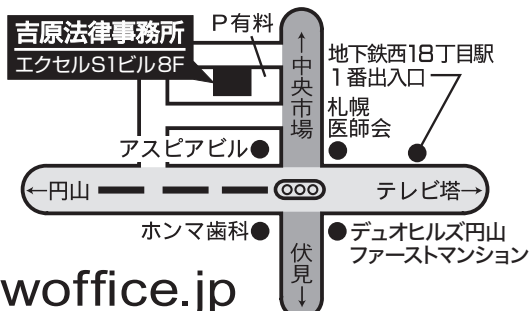
TEL 622-7963 FAX 622-8414

札幌市中央区大通西20丁目2-20
(エクセルS1ビル8F)

交通

東西線西18丁目地下鉄1番出口

E-mail lawyer@yoshihara-lawoffice.jp



営業時間においでになれない方はご相談下さい。

海洋土木株式会社

〒142-0043

東京都品川区二葉 2-11-5

代表取締役 吹原正彦

専務取締役 生田 泰 (H 1 ギ)

顧問 幡宮輝雄 (S 57 ギ)

青森営業所参事 山口伸治 (S 49 化)



F P 魚礁

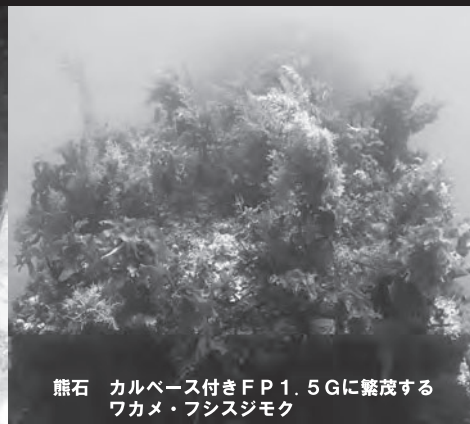


カルベース付き F P 1.5 G

人工魚礁を通じて 水産資源の保護・増殖に貢献します



鹿部 F P 魚礁に集まるエソメバル



熊石 カルベース付き F P 1.5 G に繁殖する
ワカメ・フシスジモク

玉能竹田

モンドセレクション

2026年度 優秀品質金賞受賞



数の子松前

数の子を一本まるごと使用し、真昆布、がごめ昆布、
するめと合わせ、当社独自の醤油ダレで漬け込みました。



伝統の味を真心込めてお届けしています。

株式会社 竹田食品

本社・工場/北海道函館市浅野町3番10号

TEL(0138) 43-1110

FAX(0138) 43-1113

営業所/札幌・東京・大阪・福岡

<https://takeda.hakodate.jp/>

魚に感謝したい。

魚の価値を真剣に見極め、求められる人に求められる形で届けていく。
魚を大事にする思いがあれば、水産業は、まだまだ、世の中に貢献していける。
釣八は、海と人が共存できる水産業を目指しています。



株式会社釣八 代表取締役会長 釣見泰之(昭59漁)

【水産学部卒業社員】

水井 修(昭58漁) 太田 松太郎(昭59漁) 橋本 浩典(昭59漁) 倉部 徹(昭60漁) 土井 倫行(昭60漁)

本社

〒104-0042 東京都中央区入船一丁目2番1号 PMO八丁堀IV8F
TEL:03-3297-8883 FAX:03-3297-8885

支社

八戸支店(青森県) 銚子支店(千葉県) 大阪支店(大阪府) 福岡支店(福岡県)

関連会社

(株)釣十(豊洲/マグロ仲卸) (株)いかめし阿部商店 札幌蟹販株式会社
フィッシング8(ロサンゼルス) 大連釣八(中国/水産加工)



Global*
Staffing

外国人人材を あなたの会社にご紹介します。

(株)グローバルスタッフィングは、ミャンマーの教育・送り出し機関である
アンダマンエイト社と共に、優秀な海外人材を募集・教育し、ご紹介しています。
水産・食品業界を熟知した私たちが、最適なマッチングをお約束いたします。

株式会社グローバルスタッフィング (釣八グループ:人材支援機関)

代表取締役社長 釣見泰之(昭59漁) 取締役副社長 橋本浩典(昭59漁)

本社

〒104-0042 東京都中央区入船一丁目2番1号 PMO八丁堀IV8F
TEL:03-6228-3078 FAX:03-6228-3578



アンダマンエイトAndamanEight Co.,Ltd (釣八グループ:人材送り出し機関)

No.55A, Khayayyeikthar St,Mingalardon Garden City, Mingalardon,Yangon

